

研究活動一覧

秋林 こずえ

<論文>

- | | | |
|---|--|----------|
| “Gendered Insecurity under Long-term Military Presence: The Case of Okinawa” (共著) | B. & Hans, A. eds. (2010). <i>Gender Imperative: Human Security vs. State Security</i> . Routledge: New Delhi. (pp.38-60). 共著 Takazato, Suzuyo | 2010年12月 |
|---|--|----------|

<研究発表>

- | | | |
|--|--|---------|
| 「Women’s International League for Peace and Freedom の経験から」 | 「グローバル・ガバナンスと NGO - 成果・課題・展望パネル」日本 NPO 学会第 12 回年次大会 立命館大学 2010 年 3 月 13 日～14 日 | 2010年3月 |
| “Toward a Common History of Our Past” (コメンテーター) | History and Society II Workshop, Nagoya American Studies Summer Seminar 2010 南山大学 2010 年 7 月 24 ～ 27 日 | 2010年7月 |

<講演>

- | | | |
|--|---|----------|
| “Winning the Withdrawal of Foreign Military Bases” | Workshop, <i>International Conference “For a Nuclear Free, Peaceful, Just and Sustainable World”</i> , Riverside Church, New York 2010 年 4 月 30 日～5 月 1 日 | 2010年4月 |
| “Towards Nuclear-Nuclear Free Asia-Pacific” | WILPF-US NPT Review Conference Practicum Beakman Tower, New York. 2010 年 5 月 3 日 | 2010年5月 |
| “From Okinawa to Guam, Hawai’i” | <i>Democracy Now!</i> , 2010 年 5 月 24 日放送 | 2010年5月 |
| 「米軍基地に対抗する市民ネットワーク：アジア太平洋から」 | 市民集会「沖縄－グアムから米軍基地を問う」日本キリスト教会館 2010 年 10 月 24 日 | 2010年10月 |

<その他の文筆活動>

- | | | |
|---|--|---------|
| “Okinawa: Life on the Island of US military bases” in Peace and Freedom | <i>Magazine of the Women’s International League for Peace and Freedom</i> Fall 2010 Vol.70, No2. pp.6, 22-23 | 2010年9月 |
|---|--|---------|

朝日 稔 (関下 稔)

<著書>

- | | | |
|---|-----------|----------|
| 『知識資本の国際政治経済学—知識・情報・ビジネスモデルのグローバルダイナミズム—』(編著) | 同友館 312頁 | 2010年5月 |
| 『国際政治経済学要論—学際知の挑戦—』 | 晃洋書房 342頁 | 2010年11月 |

<書評>

- | | | |
|-----------------------------------|----------------------------|---------|
| 赤羽新太郎、夏目啓二、日高亮平編著「グローバリゼーションと経営学」 | 『比較経営研究』34号 6頁
日本比較経営学会 | 2010年7月 |
| 夏目啓二編「アジア ICT 企業の競争力」 | 『経済』2頁 新日本出版社 | 2010年9月 |

<論文>

- | | | |
|--|---|----------|
| 『『三国志』から現代中国と世界を推理する—易中天『三国志 素顔の英雄たち』を味わいながら—』 | 『立命館国際研究』第22巻3号 pp.295-310
立命館大学国際関係学会 | 2010年3月 |
| 『21世紀アメリカの競争力強化思想の旋回—「イノベートアメリカ」の深層に迫る—』 | 『立命館国際研究』第23巻1号 pp.107-129
立命館大学国際関係学会 | 2010年6月 |
| 『21世紀アメリカ先端産業の焦燥と希望と模索—「アメリカ競争力法」への多様な道のりを探る—』 | 『立命館国際研究』第23巻2号 pp.121-144
立命館大学国際関係学会 | 2010年10月 |

<その他の文筆活動>

- | | | |
|-------------------------------|------------------------------------|---------|
| 日本国際経済学会 第68回全国大会メモランダム(学会論評) | 『世界経済評論』2010年3/4月号 12頁
世界経済研究協会 | 2010年4月 |
|-------------------------------|------------------------------------|---------|

足立 研幾

<著書>

- | | | |
|------------------------------|--|----------|
| 『現代社会集団の政治的機能：利益団体と市民社会』(共著) | 木鐸社 | 2010年4月 |
| 『特集：通常兵器に関する軍備管理の展望』(編集) | 『国際安全保障』第37巻4号 | 2010年4月 |
| 『現代カナダを知るための57章』(分担執筆) | 執筆担当「レスター・ボールド・ピアソン—今なお尊敬される政治家」・「カナダ外交の特質—「アイデンティティ」・「対米関係」・「国益」のトリレンマ」
明石書店 | 2010年10月 |

<論文>

- | | | |
|-----------------------------------|----------------------|---------|
| 『通常兵器分野の軍縮・軍備管理—レジーム密度上昇とそのインパクト』 | 『国際安全保障』第37巻4号 1-13頁 | 2010年4月 |
|-----------------------------------|----------------------|---------|

<学会報告>

- | | | |
|---------------------|--|----------|
| 『重複レジーム間の調整に関する一考察』 | 日本国際政治学会 部会7「国際制度分析の再考」於：札幌コンベンションセンター | 2010年10月 |
|---------------------|--|----------|

安藤 次男

<著書>

『グローバル世紀への挑戦』（共編著） 片岡幸彦・幸泉哲紀・安藤次男 2010年4月
編 文理閣

<翻訳>

H・バターフィールド、M・ワイト著『国際関係理論の探求』（共訳） 佐藤誠、安藤次男、龍澤邦彦、 2010年11月
大中真、佐藤千鶴子、齋藤洋
他訳 日本経済評論社

<論文>

「ブッシュの単独主義外交とアメリカ孤立主義」 『立命館国際研究』第22巻3号 2010年3月
pp.245-260
立命館大学国際関係学会

「外国人受け入れをめぐる労使の対立」 佐藤誠編『越境するケア労働』 2010年12月
日本経済評論社 所収
206 - 221 ページ

安齋 育郎

<著書>

『ホントにあるの？ ホントにいるの？』 「ふしぎ」を科学しよう 2010年3月
(編著・共著) かもがわ出版

『これってホントに科学？』（編著・共著） 「ふしぎ」を科学しよう 2010年3月
かもがわ出版

『だまし世を生きる知恵』 新日本出版 2010年10月

<その他の文筆活動>

「易断・独断・一刀両断」 『上方芸能』175号 2010年3月
上方芸能編集部

「『これってホントに科学？』のこと」 『上方芸能』176号 2010年6月
上方芸能編集部

「なぜ、人はだまされるのか」 『全人』740号 2010年6月
玉川学園・玉川大学

「『核兵器国』と『核保有国』の間」 『新英語教育』492号 2010年8月
三友社出版

「霊感的ビビビッ！と花粉症」 『上方芸能』177号 2010年9月
上方芸能編集部

「国家的信用詐欺「核の傘」マジック・ショー」 『上方芸能』178号 2010年12月
上方芸能編集部

池田 淑子

<論文>

“A Self-Portrait of Japan and the Japanese of the 1970s: Interpretations of Renzo and Sayoko Kinoshita’s Animated Films” *Japan as images: (Crossing Viewpoints of Europe and Japan)* Vytautas Magnus University 2010年3月

<研究発表>

「日本人のセルフイメージと方法論—対立から内在化へ、投射の法則」 言語文化レトリック研究会 第76回例会 2010年9月
大阪大学 2010年9月17日

<講演>

“A Case of Cinematic Projections: How the Japanese Find Themselves in American Characters in Japanese Films” International conference “Japan as Represented in European Medeias: Its Analytic Methodologies and Theories” Vytautas Magnus University, Lithuania Nov., 4-5, 2010 2010年11月

石原 直紀

<シンポジウム>

“GRIPS State-Building Workshop 2010: Organizing Police Force in Post Conflict Peace-Support Operation” “UNTAC, Cambodian Police-force and UNPOL” (パネリスト) 政策研究大学院大学主催 2010年1月27 - 28日 2010年1月

「新しい平和学のパラダイム構築を目指して - ポスト紛争国と民主化移行国における治安部門改革 (Security Sector Reform:SSR) と国際協力の展望」 「SSR と国連」 (パネリスト) 立命館大学国際関係研究科 GP プログラム主催 2010年11月5 - 6日 2010年11月

“The 10th Korea-Japan Seminar on UN System- Changing Global Governance and the United Nations” “Tasks of the UN Secretary-General: Vision and Reality” (パネリスト) Seoul National University 2010年12月17 - 18日 2010年12月

板木 雅彦

<著書>

『現代世界経済をとらえる Ver.5』 石田修, 板木雅彦, 櫻井公人, 中本悟編 東洋経済新報社 2010年4月

「国際過剰資本とグローバリゼーション」(共著) 田中祐二, 中本悟編著『地域共同体とグローバリゼーション』 晃洋書房 267 - 287 ページ 2010年11月

井上 純一

<論文>

- | | | |
|--|--|----------|
| 「Adorno/Horkheimer の反ユダヤ主義研究—「反ユダヤ主義のエレメント」の論理—」 | 『立命館国際研究』第22巻3号 pp.261-279
立命館大学国際関係学会 | 2010年3月 |
| 「ヘルマン・ボーンネルと日本学—牧師館の子 Hermann Bohner (3)—」 | 『青島戦ドイツ兵俘虜収容所研究』第8号 鳴門市ドイツ館
「青島戦ドイツ兵俘虜収容所研究」刊行会 | 2010年11月 |

及川 正博

<講演>

- | | | |
|---------------------------------|--|---------|
| 「アメリカン・ドリームの光と影—『セールスマンの死』を巡って」 | 映画に見る国際関係・講演会—文化部門, 国際関係学会学生委員会主催, 立命館大学諒友館 829 教室, 2010年5月27日 | 2010年5月 |
|---------------------------------|--|---------|

<学術講演会および学会研究報告司会およびコメンテーター>

- | | | |
|--|---|----------|
| “Working in Papua New Guinea: A View from Archaeology” by Herman Mandui (Chief Archaeologist of the National Museum and Art Gallery of Papua New Guinea) および “Recent Advances in Papua New Guinea Archaeology” by Glenn Summerhayes (Professor, Department of Anthropology, Gender & Society, University of Otago) | 2010年度・第1回国際関係学部学術講演会の司会, 国際関係学部・研究学会委員会主催, 諒友館 831 教室, 2010年4月23日 | 2010年4月 |
| 「コミュニケーション行動における中国人価値観の変化—小学校教科書の内容分析を通して—」 | 第26回日本比較生活文化学会研究発表大会, 楊悦(常葉学園大学非常勤講師)の司会, 日本大学(三島キャンパス)15館 1512号教室, 2010年11月27日 | 2010年11月 |
| 「グロービッシュを使用したビジネス交渉に関する試論」 | 第26回日本比較生活文化学会研究発表大会, 高森桃太郎(同志社大学商学部研究科博士後期課程)の司会, 日本大学(三島キャンパス)15号館, 1512号教室, 2010年11月28日 | 2010年11月 |
| 「未来を救う構想」(“How Design Will Save the Future”) | 日本比較生活文化学会・秋季例会, パトリック・タッカー (The World Future Society の機関誌 <i>The Futurist</i> 首席編集者) の司会およびコメンテーター, 立命館大学恒心館 728 号室, 2010年12月18日 | 2010年12月 |

<その他の文筆活動>

- | | | |
|---|---|---------|
| 「立命館大学における PNG 関係の講演会報告」 (“Working in Papua New Guinea: A View from Archaeology” Herman Mandui / “Recent Advances in Papua New Guinea Archaeology”) Glenn Summerhayes | 『ごらくちょう』(日本パプアニューギニア協会会報) No.28, 31July 2010, NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報 | 2010年7月 |
|---|---|---------|

大島 堅一

<著書>

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』 東洋経済新報社 2010年3月
- 『環境の政治経済学』 除本理史, 大島堅一, 上園昌武 (共著) ミネルヴァ書房 2010年11月
- 『アジア環境白書 2010 / 11』 日本環境会議「アジア環境白書」編集委員会 (共著編) 東洋経済新報社 2010年12月

<学会報告>

- 「地域温暖化対策の役割と課題—先進事例より—」 日本地域経済学会, 岐阜経済大学 2010年11月
2010年11月28日

<その他の執筆活動>

- 「座談会 低炭素社会をめざして—政権交代と構造転換 (特集 低炭素社会への選択—原子力か再生可能エネルギーか)」 『環境と公害』 第39巻3号, 2010年1月
56-63 ページ 岩波書店
- 「第9回アジア・太平洋 NGO 環境会議 (APNEC9 京都会議) の記録と宣言 (特集 アジアの持続可能な発展をめざして)」 『環境と公害』 第39巻4号, 2010年4月
27-33 ページ 岩波書店

小木 裕文

<論文>

- 「马来西亚の華人政党的教育政策探討—以从 1959 年到 1995 年为中心—」 『立命館国際研究』 第22巻3号 2010年3月
pp.11-28
立命館大学国際関係学会
- 「东马砂朥越州的华人社会和华文教育」 『立命館経済学』 第58巻第5・6号 pp.261-271 2010年3月
立命館大学経済学会
- 「福建省福清出身者の在日新華僑とその僑郷」(共著) 山下清海・小木裕文・松村公明・張貴民・杜国慶 『地理空間』 第3巻第1号 pp.1-23 2010年6月
地理空間学会

奥田 宏司

<著書>

- 『現代国際金融 第2版』(共著編) 法律文化社 2010年3月

<論文>

- 「基軸通貨ドルとドル体制の行方—1つの「覚書」(2009年11月)—」 『立命館国際研究』 第22巻3号 2010年3月
pp.29-52
立命館大学国際関係学会
- 「米資本収支の概念上の区分と2006年, 08年の米経常赤字ファイナンスの困難性」 『立命館経済学』 第58巻5.6号 2010年3月
pp.215-235
立命館大学経済学会

- 「現代国際金融とドル体制の現局面」 『比較経済研究』第47巻2号 2010年6月
pp.15-26 比較経済体制学会
- 「ユーロと諸通貨の間の短資移動の現状—2008年の為替スワップ市場の混乱もあわせて—」 『立命館国際研究』第23巻1号 2010年6月
pp.1-24 立命館大学国際関係学会
- 「東アジアにおける「為替相場圏」の形成」 『国際金融』1214号 pp.14-23 2010年7月
外国為替貿易研究会
- 「2010年の世界の外為市場における取引の諸特徴—国際通貨論的な視点での1つのメモ—」 『立命館国際研究』第23巻2号 2010年10月
pp.1-21 立命館大学国際関係学会

夏 剛

<論文>

- 「汶川巨震の地縁伏線：神州「龍脈」・禍根交織の傑・劫結節——汶川劫難、阪神劇震史鑑合鏡対照之一」 『立命館経営学』第58巻 2010年3月
272 - 299頁
- 「“国脐・地心”聚藏的“原震”宿命：中日多难兴邦历程的表征——汶川劫難、阪神劇震史鑑合鏡対照之二」 『立命館国際研究』第22巻3号 2010年3月
pp.53-91 立命館大学国際関係学会
- 「従紅日高昇到夕陽垂落：毛沢東「神壇」語跡の盛衰栄枯」 『立命館文学』第615号 2010年3月
663 - 645頁
- 「从称谓“魔杖”管窥中国政要心迹及中国社会规则(中)——《晚年周恩来》、《毛泽东私人医生回忆录》、《毛家湾纪实》、《国家的囚徒》、《大红灯笼高高挂》等禁域・深宫话语联析」 『立命館国際研究』第23巻1号 2010年6月
pp.25-106 立命館大学国際関係学会
- 「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線(上) 『立命館国際研究』第23巻2号 2010年10月
pp.23-55 立命館大学国際関係学会

<講演>

- 「魔都」から「魅都」へ——成熟して国際先端都市に向う上海 2010年度同済大学・立命館孔子学院合同セミナー「ポスト上海万博と都市発展」 立命館大学大阪オフィス 2010年12月17日

桂 良太郎

<著書>

- 「介護哲学」「アジアの介護」の項 『高齢者の介護のコツ—介護を支える基礎知識』pp.96-97, pp.175-176 クリエイツかもがわ, 石田一紀 他 編著 2010年4月
- 「ベトナムのお年寄りたちに生きざまから学ぶもの—福祉学と平和学と老年学の統合を目指して—」 『ベトとドクと日本の絆—「奇跡の命」を通じて考える戦争と人間』 藤本文朗, 桂良太郎, 小西由紀 編著 pp.121-138 新日本出版社 2010年11月

<論文>

「ベトナムのお年寄りたちの生きざまから学ぶもの」
 (世界のくらしと文化③ ベトナム) 『人権と部落問題』62 (5), 2010年4月
 pp.59-64 部落問題研究所

<調査報告>

「アフリカ、中東の平和博物館訪問から学んだこと
 から」—和解のキーワードは「市民力」と平和構築
 は「3k (観光・健康・環境) の融合」から— 平和のための博物館・市民ネット
 ワーク山根昌彦, 山根和代,
 安齋育郎編「ミューズ」第24
 号 pp.16-18 2010年2月

<講演>

「これからのまちづくりと平和構築—里山は日本の
 自然のおおもと—」 奈良県母親大会平和分科会 2010年5月
 奈良県母親大会実行委員会
 2010年5月30日

「超高齢化社会とアジアの未来」 京都自由大学 2010年7月
 2010年7月16日

「いまシンガポールがおもしろい!—シンガポール
 をみればアジアがみえる—」 大阪人間科学大学 2010年12月

加藤 恒彦

<学会発表>

「インド文学の魅力」 黒人研究会 2010年10月例会 2010年10月
 会 神戸外国語大学
 2010年10月23日

君島 東彦

<論文>

“Article 9” Nigel J. Young (ed.), *The Oxford International Encyclopedia of Peace*, Volume 1 (New York: Oxford University Press, 2010) pp. 151-152 2010年1月

“Hiroshima und Nagasaki 65 Jahre später: Friedensbewegungen im Nachkriegs-Japan” *FriedensForum*, 2/2010, pp. 32-33 (Bonn, Germany: Netzwerk Friedenskooperative) 2010年4月

「日米安保体制をどのように克服するか——共同体形成と脱軍事化への道筋」 『法律時報増刊 安保改定50年——軍事同盟のない世界へ』 227-234頁 日本評論社 2010年6月

“Revisiting Hiroshima and Nagasaki 65 Years Later: Peace Movements in Postwar Japan” *FORUM* Vol. 1 No. 1 pp. 11-12 (Jaipur, India: Centre for Gandhian Studies, University of Rajasthan) 2010年10月

<学会発表>

「グローバル・ガバナンスとNGO——成果・課題・展望」 日本NPO学会第12回年次大会 於・立命館大学衣笠キャンパス 2010年3月14日 2010年3月

研究活動一覧

「日米安保改定 50 年の平和学的課題」	日本平和学会春季研究大会「憲法と平和」分科会 於・お茶の水女子大学 2010 年 6 月 20 日	2010 年 6 月
“Global Constitutionalism and Japan's Constitutional Pacifism”	International Peace Research Association 2010 Conference World Governance and Peace Working Group University of Sydney July 8, 2010	2010 年 7 月
<シンポジウム>		
“Japan's Constitutional Pacifism and Global Civil Society”	Global Economic Crisis and Socio-Cultural Changes (International Postgraduate and Academic Conference) Chung-Ang University, Seoul, Korea March 26, 2010	2010 年 3 月
Asia-Pacific University Presidents' Peace Forum	Panel Discussion: Peace and Sustainable Development in the Asia-Pacific Ritsumeikan University Kinugasa Campus December 11, 2010	2010 年 12 月
<その他の文筆活動>		
「日本国憲法の基本原理のさらなる具現化と活性化——精査される立憲主義の概念——千葉真『「未完の革命」としての平和憲法』について」	図書新聞 2987 号 (2010 年 10 月 30 日)	2010 年 10 月
清本 修身		
<その他の文筆活動>		
「東南アジア 4 カ国の情勢分析」	『ブリタニカ国際年鑑 2010 年版』ブリタニカ・ジャパン社	2010 年 4 月
「パゴタと政治のパラドックス ミャンマー軍政」	日本記者クラブ 会報	2010 年 11 月
小山 昌久		
<論文>		
「ミャンマーにおける社会資本整備の現状と課題—政府の役割と民間方式の活用—」(共著)	JICA 嶋田晴行氏と共著 JICA 研究所内報告書「ミャンマー経済の現実と課題」	2010 年 12 月
<シンポジウム>		
国際協力キャリアフェア in 京都 2010「世界で活躍する日本人」(パネルディスカッション コーディネーター)	後援 大学コンソーシアム京都、(株)国際開発ジャーナル社他 立命館大学衣笠キャンパス以学館 2010 年 6 月 13 日	2010 年 6 月
Highlights of Japanese Development Experience: Lessons for JJ/WBGSP Alumni Joint Course (企画・コーディネーター)	世銀奨学生短期セミナー 主催：世界銀行研究所 立命館大学 2010 年 10 月 25 日 - 31 日	2010 年 10 月

- アジア太平洋学長平和フォーラム「国際平和構築のために大学は何ができるか」(総合企画・コーディネーター)
- 立命館大学・アジア太平洋大学 2010年12月
立命館大学衣笠キャンパス創思館 2010年12月11日
- <講演>
- 「Economic Development Learnt from Japanese Experiences」
- 世銀奨学生短期セミナー 2010年10月
立命館大学朱雀キャンパス 2010年10月30日
- 佐藤 誠
- <著書>
- 『南アフリカを知るための60章』(共著)
- 「移民—南アと南部アフリカ・世界を結ぶ人の流れ」 pp.321-325, 「虹の国」とゼノフォビア」 pp.340-344 担当 明石書店 2010年4月
- Japan and Africa: Globalization and Foreign Aid in the 21st Century* (共著)
- “An historical analysis of Japan’s aid policy in Africa” 担当, pp.8-24 Routledge 2010年6月
- 『超境するケア労働—日本・アジア・アフリカ』(編著)
- 日本経済評論社 pp.1-252 2010年12月
- <翻訳>
- H. バタフィールド、M. ワイト編『国際関係理論の探求—英国学派のパラダイム』(共訳)
- 佐藤誠, 安藤次男, 龍澤邦彦, 大中真, 佐藤千鶴子, 齋藤洋ほか (共訳)
日本経済評論社 pp.1-269 2010年11月
- 末近 浩太
- <論文>
- 「抵抗と革命をむすぶもの(2): イスラーム思想史のなかのレバノン・ヒズブラー」
- 『立命館国際研究』第22巻3号 pp.93-132 2010年3月
立命館大学国際関係学会
- <調査報告>
- 「巨星墜つ、ファドルラー師逝去」
- 『季刊アラブ』第134号 pp.26-27 日本アラブ協会 2010年9月
- <研究発表>
- 「2000年代のレバノン政治を振り返る: 『非公的政治空間』の動態的分析のための一視座」
- 科学研究費補助金基盤研究B 「現代東アラブ地域の政治主体に関する包括的研究: 非公的政治空間における営為を中心に」(東京外国語大学) 2010年5月7日 2010年5月
- 「レバノン国家と『第二の暴力装置』としてのヒズブラー」
- 科学研究費補助金基盤研究A 「現代中東・アジア地域における紛争・国家破綻と社会運動」(東京外国語大学本郷サテライト) 2010年11月21日 2010年11月

<学会発表>

“Changing and Unchanging Face of Post-Syria
Lebanese Politics: Power-sharing Arrangements,
National Integration, and International
Relations”

World Congress for Middle
Eastern Studies (WOCMES)
(The European Institute of
the Mediterranean (IEMed)
and the Universitat
Autònoma de Barcelona
(UAB), Barcelona, SPAIN)
2010年7月21日

2010年7月

“If Not Authoritarianism nor Democracy, then
What?: Lebanese Power-sharing Arrangements
after the 2005 Independence intifada”

IAS Third International
Conference “New Horizons in
Islamic Area Studies:
Continuity, Contestations and
the Future” (Kyoto
International Conference
Center, Kyoto, JAPAN) 2010年
12月19日

2010年12月

<講演>

「中東地域のポスト紛争国における SSR：イラクと
レバノン」

立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 研究プログラム 「新しい平和学にむけた学際的研究拠点の形成：ポスト紛争地域における和解志向ガバナンスと持続可能な平和構築の研究」 公開シンポジウム 「新しい平和学のパラダイム構築を目指して：ポスト紛争国と民主化移行国における治安部門の再建課題と国際協力の展望」 (立命館大学) 2010年11月5日

2010年11月

<その他の文筆活動>

「ヒズボラはなぜ戦い続けるのか」(中東レポート)

「Asahi 中東マガジン」朝日新聞社 2010年11月29日

2010年11月

高橋 伸彰

<著書>

「生活第一の内需主導へ」

山口二郎編 『民主党政権は何をなすべきか』
岩波書店 pp.72-86

2010年1月

『脱成長の地域再生』(共編著)

神野直彦・高橋伸彰編著
NTT 出版

2010年12月

<論文>

「経済失政が続いた原因は成長信仰にある」

『中央公論』4月号
中央公論社 pp.50-57

2010年3月

<研究発表>

「日本経済の再生一閉塞感の本質は何か」

立命館大学社会システム研究所
シンポジウム
2010年11月23日

2010年11月

<その他の研究活動>

「2010年度予算案について」 衆議院予算委員会で公述人として陳述 2010年2月24日

竹内 隆夫

<論文>

「タイの社会変動と東北地方住民の対応」 『立命館経済学』第58巻第5.6号 pp.236-260 2010年3月
立命館大学経済学会

<調査報告>

「東北タイにおけるローリエット県の位置」 『東アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究』pp.223-232 2010年3月
平成19年度～22年度科学研究費補助金（基盤研究A）研究成果中間報告書（平成21年度）

龍澤 邦彦

<著書>

『トピックから始める法学』（共著） Part 4「グローバル社会へ」所収 成文堂 2010年6月

<翻訳>

H. バタフィールド、M. ワイト編『国際関係理論の探求—英国学派のパラダイム』（共訳） 佐藤誠、安藤次男、龍澤邦彦、大中真、佐藤千鶴子、齋藤洋（共訳）日本経済評論社 pp.1-269 2010年11月

中川 涼司

<著書>

「中国IT企業家の世代交代とビジネス・モデル—頭脳循環モデルの妥当性—」 夏目啓二編『アジアICT企業の競争力—ICT人材の形成と国際移動—』ミネルヴァ書房, 121-138ページ ISBN 978-4-623-05720-7 2010年4月

『知識資本の国際政治経済学—知財・情報・ビジネスモデルのグローバルダイナミズム—』（共著編） 関下稔・中川涼司編 同友館 ISBN 978-4-496-04682-7 2010年6月

「中国におけるオンライン・デジタルコンテンツ・ビジネスと『頭脳還流』・『クリエイティブ・クラス』」 同上書 2010年6月

<論文>

「中国オンライン・デジタルコンテンツ・ビジネス企業家と社会的形成モデル」 『国際地域研究』第30号 1-16ページ 2010年3月
立命館大学国際地域研究所

「中国フラット・テレビ、フラット・パネル・ディスプレイ製造企業と企業家—中国のIT企業家と社会的形成モデルその3—」 『立命館経済学』第58巻第5・6号 300-325ページ 2010年3月
立命館大学経済学会

“Generational Change in Chinese ICT Entrepreneurs and their Business Models: A Review of A. Saxenian’s Brain Circulation Model”
『立命館国際研究』第23巻2号 pp.57-66
立命館大学国際関係学会 2010年10月

中川 亮平

<論文>

「Working Paper: 米国による2つの外圧エピソードと日中の対応 ～日中の対外政策の傾向～」
国際セミナー「激変する北東アジア情勢」韓国統一研究院立命館大学大学院国際関係研究科 2010年12月

<研究発表>

「米国による2つの外圧と日中の対応」
国際セミナー「激変する北東アジア情勢」韓国統一研究院立命館大学大学院国際関係研究科 2010年12月
2010年12月3日

「米国による2つの外圧エピソードと日中の対応」
日米中政治経済研究会 立命館大学国際地域研究所 2010年12月
2010年12月25日

<講演>

“Overcoming the Economic Crisis”
Plenary Session on Economy United States-Japan Leadership Program 2010 Annual Meeting
2010年7月18日 2010年7月

長須 政司

<論文>

「カンボジア経済の近況及び援助と投資の増大について」
『立命館国際研究』第22巻3号 pp.281-294
立命館大学国際関係学会 2010年3月

西村 智朗

<論文>

「生物多様性条約における遺伝資源へのアクセス及び利益配分：現状と課題」
『立命館国際研究』第22巻3号 pp.133-152
立命館大学国際関係学会 2010年3月

<学会発表>

「国連のイニシアティブ—気候変動条約制度における国連の役割—」
国際連合学会（南山大学） 2010年6月
2010年6月27日

<講演>

「生物多様性条約における遺伝資源の取得と利益配分」
立命館大学（土曜講座） 2010年7月
2010年7月24日

<その他の執筆活動>

カシキリ／セドゥドゥ島事件（国際司法裁判所）（判例評釈）
杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例50』有斐閣 2010年3月

星野 郁

<論文>

- 「欧州金融危機の実相と展望」 *Business & Economic Review* 2010年3月
Vol.20 No.4 pp.25-46
日本総研
- 「知識基盤型経済に向けた EU の取り組みと課題」 (共著) 関下稔・中川涼司編, 『知識資本の国際政治経済学—知財・情報・ビジネスモデルのグローバルダイナミズム』 pp.69-98
同友館
- 「ヨーロッパにおける労働市場改革の展開と課題」 (共著) 田中素香編 『世界経済・金融危機とヨーロッパ』 pp.179-203
勁草書房
- 「ユーロとドル体制の行方」 (共著) 田中祐二&中本悟編 『地域共同体とグローバリゼーション』 pp.113-136
晃洋書房

<学会報告>

- 「ユーロの現状と行方」 2010年度金融学会秋季大会共通論題「金融危機下のユーロ」
神戸大学 2010年9月26日

本名 純

<著書>

- 『インドネシア 2009 年選挙と第 2 期ユドヨノ政権の展望』 (共著) 本名純・川村晃一編
アジア経済研究所 2010年3月

<論文>

- “Japan and the Responsibility to Protect: Coping with Human Security Diplomacy” Paper submitted to the Responsibility to Protect Study Group, Centre for Non-Traditional Security Studies, Rajaratnam School of International Studies, Singapore 2010年7月
- “The Legacy of the New Order Military in Local Politics: West, Central and East Java” *Soeharto's New Order and its Legacy: Essays in Honour of Harold Crouch* Edward Aspinall and Greg Fealy, eds. ANU E Press, pp.135-150
The Australian National University 2010年8月
- “Mainstreaming Human Security Approach in ASEAN's Anti-Human Trafficking Agenda: Civil Society Involvement and its Challenges” Paper presented at International Workshop “ASEAN ISIS-JICA Research Project on Mainstreaming Human Security in ASEAN Integration,” JICA Research Institute 2010年10月

“Orchestrating transnational crime: Security sector politics as a Trojan horse for anti-reformists”	<i>The State and Illegality in Indonesia</i> Edward Aspinall and Gerry van Klinken, eds., Leiden: KITLV Press pp.261-279	2010年11月
<研究発表>		
“Security Sector Partnership between Japan and Indonesia in the Age of ASEAN Integration”	International Symposium “New Frontiers of Indonesia-Japan Relationship,” organized by Graduate School of Japanese Studies at University of Indonesia and Center for Southeast Asian Studies at Kyoto University, held at University of Indonesia, Indonesia, 16 February 2010	2010年2月
「安全保障化された「麻薬との戦い」の諸問題——インドネシアの事例から」	政策研究大学院大学 GCOE「東アジアの開発経験と国家建設の適応可能性」ワークショップ「アジアにおける非伝統的安全保障問題」2010年3月20日	2010年3月
“Combating Human Trafficking in Southeast Asia: How Can Human Security Strategies be Adopted?”	ASEAN ISIS-JICA Inception Meeting, “Mainstreaming Human Security in ASEAN Integration,” Manila JICA Research Institute and ISDS Philippines 17 April 2010	2010年4月
「民主化インドネシアにおける政治とアンダーグラウンド——暴力の外注化・国家の犯罪化・コンフリクトの産業化」	大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」セミナー 2010年5月7日	2010年5月
「「麻薬との戦い」という政治プロジェクト——インドネシアの事例」	日本比較政治学会 10 年度大会 東京外語大学 2010年6月19日	2010年6月
“Assessing the Role of Civil Society in Anti-Trafficking Counter-Measures in Southeast Asia”	In “Strengthening Nongovernmental Contributions to Regional Security Cooperation,” international workshop co-organized by CSIS Jakarta and Japan Center for International Exchange, held in Jakarta, Indonesia 3-4 August 2010	2010年8月
“Japan-Indonesia Relationship: Political and Security Cooperation”	JICA Indonesia Seminar, at Grand Hyatt Jakarta 28-29 September 2010	2010年9月
「東南アジアにおける SSR の現状と課題」	立命館大学 R-GIRO シンポジウム「ポスト紛争国と民主化移行国における治安部門の再建課題と国際協力の展望」 2010年11月5日	2010年11月

“Jakarta’s Outlaws Today: Changing Markets, Discourses and Actors”

presented at International Seminar “Local Politics and Social Cleavage in Transforming Asia,” organized by JSPS and CSEAS, Kyoto University December 18, 2010

2010年12月

益田 実

<論文>

「政策の空白」は存在したのか—保守党から労働党への政権交代とイギリスのEEC政策、1963年1月—66年3月」

日本EU学会年報, 第30号
155-177頁 日本EU学会

2010年6月

「OEEC再編過程をめぐる英米関係, 1959年—1961年」

『立命館国際研究』第23巻2号
67-87頁
立命館大学国際関係学会

2010年10月

<翻訳>

O・A・ウェスタッド著『グローバル冷戦史-第三世界への介入と現代世界の形成』(序章、第1章、第3章担当)

佐々木雄太監訳, 小川浩之・益田実・三須拓也・三宅康之・山本健訳
名古屋大学出版会

2010年7月

<研究発表>

「ヨーロッパ統合の歴史過程と東アジア：過去110年の経験は何を物語るか？」

立命館大学創立110周年記念国際地域研究所シンポジウム「グローバル危機後の新たな東アジア構築」(立命館大学以学館2号ホール) 2010年11月26日

2010年11月

松下 冽

<著書>

『現代メキシコの国家と政治——グローバル化と市民社会の交差から——』

御茶の水書房

2010年3月

<論文>

「民主的移行期における「国家・社会」関係変容の側面—サリナス政権期のローカル政治を中心に(下)—」

『立命館国際研究』第22巻3号
pp.153-191
立命館大学国際関係学会

2010年3月

「民主的ローカル・ガバナンスとシナジー型「国家・市民社会」関係(上)—インド・ケーララ州が提起する課題—」

『立命館国際研究』第23巻2号
pp.89-120
立命館大学国際関係学会

2010年10月

<翻訳>

ダニエル・アーキブージ『グローバル化時代の市民像——コスモポリタン民主政へ向けて——』(共訳)

法律文化社

2010年11月

<その他の執筆活動>

「楽園メヒコ、その未来」

『TRANSIT』第11号
pp.144-145 講談社

2010年12月

松田 正彦

<論文>

「ミャンマー・シャン州南部における山地農業の成り立ち—商業的農業と灌漑畑作の進展と系譜」 『農耕の技術と文化』 27 : 109-134. 2010年12月

<学会発表>

「ミャンマー水田稲作の集約化レベル—農家聞き取り調査からみた化学肥料投入と収量の実態」 日本熱帯農業学会（第107回講演会）千葉大学 2010年3月

「ミャンマー・シャン高原南部の畑作農村における農業生態システムの変容—商業的農業への転換と灌漑畑作の発展」 日本熱帯農業学会（第107回講演会）千葉大学 2010年3月

南川 文里

<論文>

「多人種都市ロサンゼルスと環太平洋の想像力：リトルトーキョー／ブロンズヴィルの経験から」 『立命館言語文化研究』 21 巻 4 号 175-184 頁 立命館大学国際言語文化研究所 2010年3月

「『市民』の境界、シヴィックな越境：排日運動期の日系移民とシヴィック・リアリズム」 『アメリカ史研究』 第33号 59-75 頁 日本アメリカ史学会 2010年8月

<書評>

竹沢泰子編『人種の表象と社会的リアリティ』 『移民研究年報』 第16号 149-152 頁 日本移民学会 2010年3月

Yuiko Fujita, *Cultural Migrants from Japan, Youth, Media and Migration in New York and London* *International Journal of Japanese Sociology*, Number 19 pp.140-142 日本社会学会 2010年10月

三宅 正隆

<論文>

「言語変異」をめぐる視点：I-言語学から見た社会言語学 『立命館国際研究』 第22巻3号 pp.193-218 立命館大学国際関係学会 2010年3月

文 京洙

<著書>

『在日コリアン事典』（共編著） 明石書店 2010年11月

<論文>

「ドイツ統一と朝鮮半島 ハーバーマスの介入とその後」 『神奈川大学評論』 60号 神奈川大学 2010年3月

「日本と韓国 歴史意識の相克」 『現代の理論』 25号 明石書店 2010年10月

森岡 真史

<論文>

- | | | |
|-----------------|--|---------|
| 「ポーレの比較経済体制論」 | 『立命館国際研究』第22巻3号
pp.219-244
立命館大学国際関係学会 | 2010年3月 |
| 「置塩経済学の理論と方法」 | 『季刊経済理論』第47巻第2号
pp.89-100 経済理論学会 | 2010年7月 |
| 「緩衝装置とゆるやかな結合系」 | 西部忠・吉田雅明編『進化経済学基礎』98-106頁
日本経済評論社 | 2010年7月 |
| 「資本主義」(西部忠氏と共著) | 西部忠・吉田雅明編『進化経済学基礎』178-189頁
日本経済評論社 | 2010年7月 |

<書評>

- | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|---------|
| 「小島修一『20世紀初頭ロシアの経済学者群像』」 | 『比較経済体制研究』第47巻
pp.91-95 比較経済体制学会 | 2010年1月 |
|--------------------------|-------------------------------------|---------|

<学会発表>

- | | | |
|---|--|----------|
| The Multi-Sector Analysis of Pure Quantity Adjustment Process: Input Structure, Buffer Inventories, and Sales Forecast by Averaging | International Conference on Production and Distribution, Meiji University
2010年9月4日 | 2010年9月 |
| 「社会主義とは何であったか／何でありうるか——科学・闘争・規範」 | 経済理論学会全国大会
関西大学 2010年10月24日 | 2010年10月 |

山下 範久

<著書>

- | | | |
|--------------------------|---|----------|
| 第一章「『長期』とはどれくらい長いのか」(共著) | 斉藤叫(編著)『世界金融危機の歴史的位相』pp.1-36
日本経済評論社 | 2010年4月 |
| 第12章「アメリカは『帝国』か?」(共著) | 渡辺靖(編著)『現代アメリカ』
pp.222-241 有斐閣 | 2010年11月 |

<論文>

- | | | |
|--|------------------------------------|----------|
| 「ポスト・リオリエント 7・ウォーラーステインの蹉跎—ポスト・リオリエント的ヒストリオグラフィのために」 | 『季刊 at プラス』第03号
pp.142-155 太田出版 | 2010年2月 |
| 「ポスト・リオリエント 8・ヘゲモニー概念を脱思考する」 | 『季刊 at プラス』第05号
pp.146-157 太田出版 | 2010年8月 |
| 「ポスト・リオリエント 9・埋め込まれた自由主義(前編)」 | 『季刊 at プラス』第06号
pp.156-167 太田出版 | 2010年11月 |

< 書評 >

“A MATERIALIST APPROACH TO EARLY MODERN GLOBALITY” (a review article on Vermeer’s Hat: The Seventeenth Century and the Dawn of the Global World. By Timothy Brook. London: Bloomsbury Press, 2008.)

International Journal of Asian Studies, 7: 221-226
Cambridge University Press
(in association with the Institute for Advanced Studies on Asia, University of Tokyo)

2010年6月

Michel WASSERMAN

< 論文 >

“Un mythe japonais : la Neuvième”

『*Empires éloignés*』
Editions de l’EFEO

2010年6月

HAYES Blake Elaine

< 論文 >

An Interview with Deborah Cameron

The Language Teacher 34.4
Japanese Association of Language Teachers (JALT)
July/August 2010

2010年7月

Conversation with Deborah Cameron

Journal and Proceedings of the Gender Awareness in Language Education
Gender Awareness in Language Education (GALE)
2010 Vol. 3

2010年11月

Review: Gender and Human Rights Politics in Japan: Global Norms and Domestic Networks. Jennifer Chan-Tiberghien. California: Stanford University Press

Journal and Proceedings of the Gender Awareness in Language Education
Gender Awareness in Language Education (GALE)
2010 Vol. 3

2010年11月

< 研究発表 >

Academic qualifications and experience: The intersection of gender and nationality In Japanese universities

International Gender and Language Association Conference, IGALA 6
Tsuda University, 09/19/2010

2010年9月

公開討論会 (Panel)
Panel: Blake Hayes, Roslyn Appleby & Shizuko Koedo, Gender and Professionalism

International Gender and Language Association Conference, IGALA 6
Tsuda University, 09/19/2010

2010年9月

